

麦の会が受賞

読み語りボランティア「麦の会」が、「鳥取県西部地区町村社会教育協議会長表彰」を受けられました。

同団体は、平成18年に読み語りボランティア「麦の会」として活動をスタート。中山小学校をはじめ、中山中学校、放課後児童クラブなどで中山地区の子どもたちを対象に、読み語りの活動を展開し、子どもたちの表現力や話を聞く力の向上に努めました。



▶今後の活躍も期待しています！

平成26年度 ことぶき学級閉講式

名和公民館



▶『どじょうすくいスペシャル』
ただ今上演中！

『平成26年度ことぶき学級（高齢者学級）閉講式』が、3月4日（水）に保健福祉センターなわで行われました。コミカルマジックでお馴染みのジミー柴田（柴田洋司）さんに『笑いマジックとどじょうすくい』を演じていただきました。笑いどころ満載の演技に、会場内は爆笑の渦に包まれました。

閉講式では、皆勤賞31人と精勤賞20人を表彰。山根教育長の「次年度も元気に参加してください」の挨拶で終了しました。

まちのたから(1)

文化財室通信

文化財はそれぞれの地域の歴史風土・文化のなかで生まれ、現在に伝えられてきたものです。このため文化財は地域の個性や特徴を理解し、説明するうえで欠かせない「地域の宝」と言えます。

町内には国、県および町の指定・選定等によって保護が図られる文化財や未指定ながら価値の高い文化財がたくさんあります。人権・社会教育課文化財室では、今月号から町内に所在する文化財を紹介していききたいと思います。

『大山寺文書』の巻

文化財の中には伯耆大山寺

ゆかりのものも多く含まれ、華やかなりし頃の様子を伝えていきます。平成30年に大山開山1300年を迎えるということもありますので、今回からしばらく大山信仰に関わりのある文化財を紹介していきたいと思えます。

今回ご紹介するのは『大山

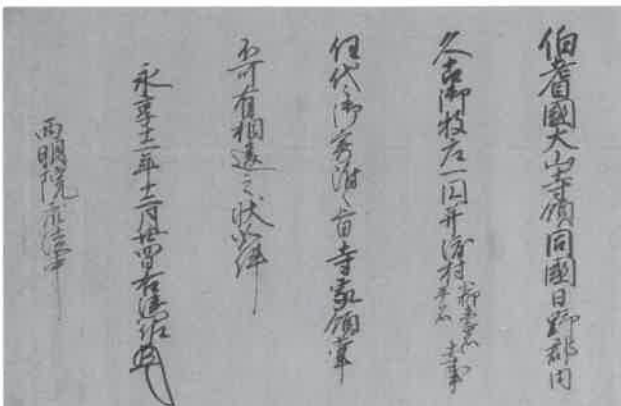
寺文書』です。『大山寺文書』は大山寺に伝えられた観応2年（1351）から天正9年（1581）頃にかけての10点の中世文書で、裏打ち軸装されて卷子一巻に収められています。

1300年の歴史を誇る伯耆大山寺は、大山山麓をはじめ広い信仰圏をもつ一山寺院で、その圏内の歴史上に果たした役割はとても大きかったと考えられます。残念ながら今日に至るまでに火災などによって、数多くの寺宝や建物、古文書が失われてしまい、当時の隆盛を物語る史料はきわめて少ないのが実情です。

その状況にあつて奇跡的に残されたのが『大山寺文書』です。点数は少ないですが、中世の大山寺領が伯耆国の広範囲におよび、天皇・将軍・守護などから公認されていたことが確認でき、当時の大山寺内外の歴史や社会構造、文化などに

関する情報をもつ貴重な歴史資料です。その価値の高さが認められて、このたび県の保護有形文化財に指定されることになりました。

町教育委員会では県教育委員会と連携し、大山信仰に関する価値の高い資料についてしっかりと保護し、公開活用を図る取り組みを進めていきたいと考えています。



▶『大山寺文書』(中世文書10点の一つ)で永享12年(1440)の文書